

くまびょう

100号

記念号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
10月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

平成17年度第1回 (通算第19回)

開放型病院連絡会開催される

平成17年度第1回開放型病院連絡会は9月15日にくまもと県民交流館(鶴屋東館)パレオホールにて開催されました。開始に当たり、宮崎院長が登録医の先生方へ日頃のご協力ご指導に対してお礼を述べ、病院の現状として臨床研修医の研修の実際、セカンドオピニオン外来の開設、病院新築の進捗状況、オーダーリングシステムの導入予定、熊本大学との連携大学院の開設について報告しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生より挨拶を頂きました。福田先生は医療界を取り巻く状況がますます厳しくなった今こそ、高度医療とともに丁寧な医療、きめ細やかな医療が必要であり、それを実践するには病診連携が不可欠であり、病診連携を通じて医療機関の間の、また医療機関と患者との信頼関係を築くことが重要であると強調されました。

つづく全体会議は医師会林田理事と私が進行を担当し、症例紹介として消化器科の杉医長が「肝がんに対するラジオ波焼却療法」を、ついで心臓血管外科の毛井医長が「最近の大動脈解離の治療の現状と成績向上」を呈示しました。これらの発表に対してフロアと活発なディスカッションが行われました。引き続き「開放型病院の利用について」と言うテーマでパネルディスカッションを行い、開放型病院登録医の荒木春夫先生(循環器科)、外間裕人先生(整形外科)、吉川成章先生(外科)、有働秀一先生(歯科)より病院への要望等を発表して頂きました。今回は概ね穏やかな内容のご発言でしたが、これにこびることなく開放型病院としてより良い医療を目指しますので、今度ともお気づきの点などご指摘下さいますようお願い致します。またフロアから熊本市歯科医師会会長の古賀明先生より、

歯科診療所と当院歯科口腔外科、救命救急センターとの病診連携の現状や当院研修センターで実施している「歯科医のための救急蘇生研修会」などについてコメントを頂きました。

総会終了後、会場を鶴屋ホールに移し懇親会を開催しました。熊本市医師会長の福田 稔先生にご挨拶と乾杯の音頭を取って頂き開宴しました。懇親会の中で今年当院に赴任した新人医師の紹介をさせて頂きました。歓談のなかで登録医の先生より名札をみても医師の診療科が分からないとのご指摘がありました。次回からはこの懇親会用に医師とすぐ分かる色にして、診療科名をいれた名札を用意致します。最後に前副院長で登録医の木村圭志先生にご挨拶をいただき、一本締めで懇親会を終了しました。

有料であるにもかかわらず多数の先生方にご出席頂き心より感謝しています。これからも病病・病診連携がさらに充実するように努力致します。

(副院長 池井 聡)



パネルディスカッションの風景

くまびょうNEWS100号を記念して 病診連携のあるべき姿を求めて

熊本市医師会長

福田 稠



高度先端医療からプライマリー・ケアまで、あまねく効率的に提供するスキームとして、専門医とかかりつけ医が、それぞれに役割を分担する病診連携が広く行われています。この病診連携も今でこそ、高く評価されていますが、国立病院が、開放型病院に指定された当時は、まだ海のものとも、山のものとも評価が定まっておらず、その様な時に、この病診連携にいち早く着目し導入された宮崎院長の先見性に心から敬意を表します。

また、同時に、その様な新しい試みに、快く協力されたスタッフの方々の前向きな姿勢にも敬意を表したいと思います。ただでさえ多忙で手一杯の医療現場に、新しい試みに挑戦する余裕などともなかったはずですが、ただ、厳しい医療現場の中で、患者様に少しでも満足して頂ける医療を提供したいという熱い思いが、宮崎院長をはじめとして全てのスタッフの方々にあったからこそ実現したものと思います。

私ども熊本市医師会でも、その様な先生方の志に感銘し、積極的に参加させて頂きました。

現在では、歯科を含めて登録医が1,000名を超えると聞いています。

国立熊本病院は国立病院機構熊本医療センターと名前を変えましたが、単に熊本の中核病院であるだけではなく、私ども開業医にとって頼り甲斐のある、なくてはならぬ存在になっています。

今後さらに、心一つにして、共に切磋琢磨し、理想的な病診連携の実現を目指して努力して行きたいと思えます。

独立行政法人国立病院機構熊本医療センターのますますの充実と発展を心からお祈り致します。



回顧

寺尾病院

高橋 等



今年は戦後60年、種々のメディアで回想録が多く見聞される。繰り上げ卒業が迫っていた我々学生の医学教育は終戦により正規に戻され、卒後1年間のインターン生活の後、国家試験に合格して医師免許を取得する制度に決まった。

新制度の国家試験の難易度が不明で、大学を離れる不安はあったものの、敢えて陸軍病院から変身した国立熊本病院のインターン生に志願した。人数が十数名と少なかったのでは色々の特典があった。密着した指導が得られ、手術の助手、出産の立会いなどの機会にも

恵まれた。内科では時の病院長小宮悦造先生（前熊本医科大学長）から得難い血液標本の観方を指導して戴いた。その上、分院にあった集会場を十名余りが同居できるインターン寮として与えられた。

朝夕の食餌は自分等がバケツに入れて運び、当番が皆につき分けた。皆良く気が揃い、夜も遅くまで勉強し、良い成績で全員国家試験に合格した。今は研修医は有給の様であるが、当時は無給であり、次の山田正信病院長が君達も役に立っているので、溜まった食費は払わなくても良いと云う粋な計らいがあった。国家試験合格のあとは数名の者が公務員として八千円余の給料を戴いたが、私は無給の外科医員で皮膚泌尿器科に半年出向することで給料を戴く事が出来た。その頃の医長であった中村家政先生と結核による萎縮膀胱の患者さんに輸尿管を直腸に繋ぐ手術を行い、成功して新聞に載った。外科では早く手術の腕を上げようと精一杯努力した様に思うが、まだ深い学理的な面の知識に乏しかった。

その頃から60年近く経ち、医学の進歩は目覚ましく、遙かに多くの知識を身につけ、しかもCPCその他の集会で絶えず勉強し続けて居られる現職の医師達に頭が下がる。また世界各地よりの研修生もたくさん受け入れる一大医療センターに成長した姿を見るにつけ歴代病院長の御苦勞御努力に敬意を表したい。

昔御世話になった一人として嬉しい限りである。

2005年

診療科紹介 (25)

形成外科



大島 秀男

形成外科一般、
先天異常、頭蓋顎顔面外科、
眼瞼・眼窩形成、乳房再建、
陥没乳頭、
マイクロサージャリー
日本形成外科学会専門医



宮村 さやか

形成外科一般、
熱傷、顔面外傷、
腫瘍・母斑、
ケロイド・瘢痕

研究

日本学術振興会平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

「上皮系幹細胞の分化能と可塑性に関する研究」
厚生科学ミレニアムプロジェクト
「同種培養真皮による創傷治療の共同臨床研究」

特色

形成外科は平成16年10月1日、大島が聖マリアンナ医科大学より赴任し、新しい診療科として開設されました。平成17年4月1日には宮村が赴任し、現在2名で外来診療、手術、救急診療にあたっています。

形成外科で扱う分野は

- 1) 先天異常、2次的変形などの異常な形態を正常な形態にする（形を造る：形成外科）。口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症・合指症など。
- 2) 外傷・熱傷、腫瘍切除後などの組織欠損の修復、現状回復をする（形を治す：再建外科）。顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、乳房再建など。
- 3) 正常な形態をさらに美しく修正する（形を変える：美容外科）。腋臭症、陥没乳頭、二重瞼など。

という3本柱があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。手術においては先天異常、腫瘍・母斑、ケロイド瘢痕、眼瞼形成、四肢・頭頸部再建を主体に美容外科も取り入れて「きれいに治す」ことを目指しています。

最近が高齢化社会の為か、難治性潰瘍、眼瞼下垂

や顔面神経麻痺の患者様も増加しています。また顔面外傷・骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。

春休み、夏休みは就学児童の手術が集中する為、早めの御来院、御予約をお勧めしています。患者様の御紹介は直接お電話、ファックスを頂いても、患者様に紹介状を託して受診して頂いても結構です。

まもなく開設1年になりますが、病診連携を主体とした地域医療のネットワークの中でより良い医療を提供できるよう努力していく所存ですので、あらためて一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

診療実績／手術件数

（平成16年10月～平成17年8月）

入院件数：162件

手術件数：223件（他科再建手術17件、外来手術30件を含む）

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

最近のトピックス

下部尿路症 (LUTS)



泌尿器科医長

菊川 浩明

近年、前立腺の肥大を伴わない男性や女性においても、前立腺肥大症と同様な症状を呈する事が分かってきました。これらの症状のある患者様で、下部尿路に明らかな器質的あるいは神経異常を伴わない排尿障害を下部尿路症 (Lower urinary tract symptom = LUTS) といいます。

年齢が比較的若いのに、尿の出が悪い、あるいは女性でも、排尿に時間が掛かる、気持ちよく排尿できない等の症状を示す事が多く、生活の質を低下させる疾患として注目されています。診断を行う際には、病因がはっきりと解明されていませんので、除外診断による場合が多く、泌尿器科専門医による診察が必要です。超音波にて前立腺重量を測定したり、尿道狭窄の有無、女性の場合は膀胱形態や婦人科手術の既往などを調べ、尿流測定も行います。神経学的異常を疑われる患者様においては、尿流動態検査 (ウロダイナミックスタディ) を行う場合もあります (図1)。この検査では排尿中の膀胱内圧の変化をモニターすることが可能で、排尿筋の異常収縮や括約筋電図を調べることができます (図2)。

排尿状態の自覚症状も国際前立腺症状スコアで点数化します。治療は尿道弛緩作用を有する薬剤の有効性が報告されています。

現在、 α -ブロッカーである塩酸タムスロシンの第3相2重盲検比較試験が進行中で、当科におきまして

も当臨床試験に参加し新薬の開発に協力している所です。この臨床試験では通常の2倍量の塩酸タムスロシンを投与し、女性にはまだ保険適応のない塩酸タムスロシンを通常の前立腺肥大症の投与量で服用いただきます。現在まで8名 (男性6名、女性2名) に臨床試験に協力いただきましたが、重篤な副作用は認められません。高齢男子の排尿障害=前立腺肥大症という病名にて治療を受けられる方を多く認めますが、この下部尿路症も多数この中に含まれているものと考えます。

尿の出にくい患者様がいらしたら、下部尿路症の可能性もありえますので、ご紹介の程よろしくお願い致します。

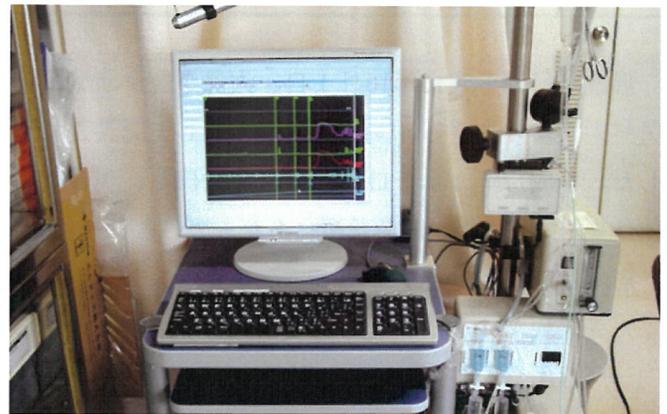


図1 尿流動態検査 (UDS)

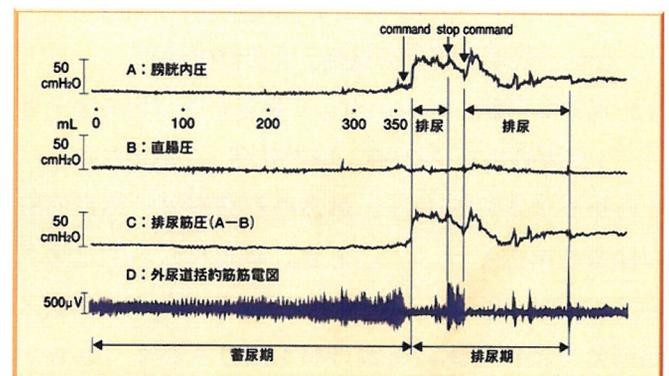


図2 健康成人のUDS所見

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

帰任の御挨拶



外科
くり さき
栗 崎
たかし
貴

約1年間県内で最も遠い牛深市民病院に勤務しまして、この度10月より「くまびょう」外科に復帰することになりました。

以前より僻地医療に興味もあり、また何より海が好きな私は、1年程前に同期の医局長に頼まれ1年間の予定で快く牛深に赴任しました。きれいな海と山に囲

まれ、のんびりとしたとても住みやすいところでした。ただ医師不足は深刻であり、技量云々の問題ではなく働きに来てくれる医師がいない現状を目の当たりにしました。一方で、住民の皆さんはやはり高度な医療を受けたいと希望されています。結果としてこの1年間の私の仕事は、病気を見つけ良い専門医を紹介することだったように思います。「くまびょう」は紹介しやすい病院で、多くの患者様をお願いしました。多発外傷の患者様をヘリコプターで搬送したこともありました。大変お世話になりました。

10月より厳しく慌ただしい生活に戻ると考えますと身の引き締まる思いです。微力ながら消化器外科分野を中心に精一杯頑張りますので、今後ともご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

新任職員紹介



心臓血管センター
心臓血管外科
おか もと
岡 本
みのる
実

平成17年10月1日より、心臓血管外科医として勤務します岡本実です。昭和59年熊本大学医学部を卒業し、第一外科（宮内教授）に入局しました。1年間の熊本大学付属病院勤務後、熊本地域医療センターで3年間、消化器外科を中心に研修しました。その後、熊本大学

大学院医学研究科入学、熊本大学医学部分子病学教室（神原武教授）で、血液凝固系と細胞浸潤の基礎研究で学位を取得しました。大学院卒業後は同教室で1年間、文部教官助手をつとめ、平成5年4月より、熊本労災病院で心臓血管外科医として7年間勤務しました。この間は、胸部外科も兼務し、心臓血管疾患とともに、呼吸器疾患の救急医療から手術まで行なってきました。平成12年4月から5年半、熊本中央病院心臓血管外科に在職し、心臓血管外科専門医を取得しています。

心臓手術の治療成績は、年々向上してきています。今後、さらに実力を身に付け、皆様のお役にたてるようになりたいと思います。



感覚器センター
皮膚科
しょう の たか みつ
城 野 剛 充

平成17年9月1日より当院皮膚科に勤務しております城野剛充と申します。熊本大学を卒業し、皮膚科入局後同院、N T T西日本九州病院と勤務して参りました。

当院に転勤となった経緯が突然の事でしたので、とまどっておりましたがようやくシステム等にも慣れて、なんとか日々の診療をこなしている毎日です。

皮膚科はどの病院でも患者数が年々増加しており当院も例にもれず、例年より患者数が増加しているようですが、萱島医長のもと多くのことを学びながら、患者様のための医療を志していこうと気を引き締めている次第です。

諸先生方をはじめ多方面の方々に何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



総合医療センター

内科

柏木 宏子



はじめまして。平成17年4月から国立病院機構熊本医療センターで研修をしている柏木宏子と申します。

昨年からは開始したマッチング制度の中で、運良く本院にマッチでき嬉しく思っています。今までのところ、腎臓内科、循環器科で2ヶ月ずつお世話になり、現在は血液内科で研修中です。腎臓内科では検査結果の見方や、診断、治療の考え方について指導医の先生に熱心に教えて頂きました。手技は、透析での穿刺や内シャント術での縫合、腎生検の介助等を経験しました。この時期になると、採血ルームでの採血実習もあって、

患者様の皮膚に針を刺すことへの恐怖感からなんとか開放された様に思います。循環器科では弁膜症や不整脈から心筋梗塞まで幅広く症例を経験しました。治療によって患者様の症状や身体所見が明らかに改善されていくのが分かったと共に、患者様の表情も日に日に明るくなっていくことを印象的に経験できました。また、指導医の先生には何でも相談できる雰囲気を作って頂き有難かったです。現在の血液内科では重症で先の見えない患者様も多くいらっしゃいます。患者様のベッドに行く前に病室の前で佇んでしまうこともあり、医療者の一言の重さを痛感しています。近々、ドナーの骨髄液を受け取りに関東の方へ出張させて頂くことになりました。責任重大ながら、貴重な経験をさせて頂くことになり大変恐縮しています。手技の面ではルート取りやIVH、骨髄穿刺が一通り出来るようになることが目標です。その他に週に1回程度の準夜帯での救急研修もしています。来年はC当直を任されることとなります。先生方を目標にしながら、少しでもお役に立てるように手技や診察能力を身につけていきたいと思っています。

未熟者でご迷惑をおかけしていますが、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

総合医療センター

内科

川崎 修二



平成17年4月より国立病院機構熊本医療センターで初期研修をさせて頂いております。学生実習の際、当院の職員の方々の優しい人柄・挨拶に心を打たれた事と、しっかりした研修体制・施設である事に、当院の研修を選択しました。

消化器内科、神経内科と2ヶ月ずつまわり、現在、呼吸器内科で研修しています。初期研修が始まって1ヶ月位は、ただ指導医の後ろをついて回ったり、医局で勉強したりと自分で動く時間が少なく、周りの研修医の携帯電話が鳴って病棟に行く姿を見るたびに焦ったりうつ状態になっていました。

現在は、呼吸器内科のハードな仕事で自分の携帯がよく鳴り、遅い時間に疲れて帰宅してうつ状態になる事もありますが、非常に充実したやりがいのある研修生活です。まだまだ指導医へ電話をかけて指示を仰ぐ事が多く、仕事が遅い為、自分の首をしめているところもありますが、できる限りスムーズに仕事をこなせるようにと自分なりに努力しています。

各々の科で学び取った事を一言ずつ簡単に言いますと、消化器科では腹部エコー検査の扱いに慣れて簡単な所見は診られるようになった事、神経内科では脳梗塞の診断・管理と髄膜炎に対する腰椎穿刺・治療に慣れた事、呼吸器内科では感染症の診断・抗菌薬の選択の考え方、これらのことが一番大きな収穫であったと感じています。学ぶべき事はまだまだたくさんあるので「収穫できた」と言うのはおこがましいかもしれませんが、素晴らしい指導医のお陰で充実した研修であると思っています。

今後も皆様方に多大なご迷惑を掛けるかと思いますが、将来頼れる医師となる為に努力してまいりますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

平成18年度 後期臨床研修医(専修医)を募集します

応募資格/平成18年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者
願書締切/平成17年10月17日(月)

▼詳細はホームページをご覧ください▼

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

研修のご案内

第81回 月曜会（無料） （内科症例検討会） 〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年10月17日（月）19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「脳梗塞で発症した感染性心内膜炎の1症例」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 津島 愛子

4. ミニレクチャー「成人T細胞白血病（ATL）について」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 武本 重毅

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第50回 三木会（無料） （糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会） 〔日本医師会生涯教育講座3単位認定・ 糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定〕

日時▶平成17年10月20日（木）19：00～21：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

座長 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎

情報提供：テルミサルタンの最新情報について
特別講演：システムつばさにおける糖尿病教育

雪ノ聖母会 聖マリア病院内科系副院長 布井 清秀

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第196回 初期治療講座（会員制） 〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年10月22日（土）15：00～17：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「褥瘡の治療」

座長 熊本市医師会 工藤昌一郎

1. 外用療法
2. 手術療法
3. 器材供覧

国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一
国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男
国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第80回 総合症例検討会（CPC） 〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年10月26日（水）19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：胸部圧迫感で発症した縦隔腫瘍の一例

（症例 20歳代、男性／主訴 胸部圧迫感）

臨床担当）国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科医長 日高 道弘

病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦

「胸部圧迫感にて前医を受診し、縦隔腫瘍と診断を受けた。治療困難なために当院へ紹介入院となった。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、少し馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

平成17年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修ホール	会議室	その他
1日(土)	14:00~16:00 第185回 滅菌消毒法講座《会員制》 「滅菌業務と法的規制」	サクラ精機(株)特別顧問 宇佐美光司 *第2種滅菌技士認定更新単位取得講座	
3日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
5日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
11日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
17日(月)	19:00~20:30 第81回 月例会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
19日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:30~21:30 第41回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会長 関 剛一 「歯科でよく用いられる薬物について」 N T T西日本九州病院薬剤科 高橋 嘉寛		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 19~21 第50回 三木会 研4 F (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定・ 糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]
21日(金)		18:00~21:00 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(土)	15:00~17:30 第196回 初期治療講座《会員制》 「褥瘡の治療」 1. 外用療法 2. 手術療法 2. 器材供覧	座長 熊本市医師会 工藤昌一郎 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一	
24日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
26日(水)	19:00~20:30 第80回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「胸部圧迫感で発症した縦隔腫瘍の一例」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
31日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 研食 研修棟食堂 研4 F 研修棟4階
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)